

# みどり・わかばの実践

## 1 学年のテーマ

「自分で学びを深める」

## 2 実践の方法

### (1) 教科と単元

国語「片仮名と漢字」(23時間完了)

### (2) 具体的な手立て

本学級の児童は、学年が様々である。そのため、個別最適な学びでは学年や児童の実態に応じて教材を分ける必要があると考えた。そこで、児童の漢字の習熟度に合わせてプリント・カードを準備した。その後の振り返りでも、児童の実態に応じたタブレット課題を作成し配布を行った。

(個別最適な学び)

協働的な学びでは児童同士のやり取りができる場を設定しようと考えた。覚えた片仮名や漢字を活用して、土日の様子を発表する活動を行った。教師のナビゲートをもとに、児童が板書をし発表を行う。その後、話に関係のある質問タイムを設けた。

(協働的な学び)

## 3 公開授業の様子(18/23時間)



① 「それぞれの課題に熱心に取り組んでいる様子」

② 「個別課題のタブレット学習をしている様子」